

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676800214
法人名	社会福祉法人 隆愛会
事業所名	賀寿園グループホーム愛
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽2814番地 (電話) 099-473-8186
自己評価作成日	平成23年8月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症」について定期的に勉強会を開催し、理解を深めながら事業所の理念を全ての職員が理解・共有し、個々の入居者様が求める「その人らしい尊厳のある生活」の実現を目指している。またご家族様との繋がりもサービスを提供していく場面はもちろんのこと、年間行事としてご家族を迎えての食事会の開催、グループホームでの日頃の生活ぶりを知っていただくための、定期的な広報誌の発行などを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、高台に広がる田園地帯の中に、特別養護老人ホームを中核とした法人の敷地内に建てられている。法人の理念は、「和顔愛語」と「地域との交流の継続」とし、ケアの基本としている。地域との交流については、日常的には周囲に民家が少ないので、同法人が運営している7つの介護保険事業所中の1事業所としてボランティアや行事を交流の場としている。また、法人内のサービスの利用を通して築かれた職員や地域の利用者との馴染みの関係が、ホーム入居後も継続している。家族に対しては、広報誌「わがんあいご」で写真を中心として利用者の近況や行事の様子などを報告している。家族会や意見交換会では、ホームについての理解を深めてもらうように努めている。職員はいつも利用者のそばで、心に寄り添ったケアを心がけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念として、「個人の尊厳を大事にする」ことを職員間で共有している。理念に基づき、「尊厳」「その人の思い」に寄り添いサービス提供につとめている。重要事項説明書等に記載し、契約し時に説明をしている。	全職員で理念を再検討し、「地域との交流継続」という地域密着型サービスの理念をつくりあげている。ホームの数箇所に理念を掲示して、その趣旨に沿ったケアを心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材買物等は入居者様が主体的に参加できるよう関りをもっている。日常的な外出支援も含めて、入居者様個々において実践している。墓参り・散髪など馴染みの場所へ職員と一緒に出向き、職員がその地域の方々とのコミュニケーションを通じ、同サービスについて情報提供をしている。	周辺に民家が少ないため、買い物や日課の散歩中の住民との挨拶が日常の交流の貴重な機会となっている。また、周りは、同系列の事業所が多く、その利用者との日常的な交流もされている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	人材育成の一環として、実習生の受け入れ等を積極的に行っている。地域交流については、上記で述べたものが殆どであるが、現在、運営推進会議等においても、地域交流についての議論を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を定期開催することで、左記の内容について報告させていただいている。当施設の議題はもちろんながら、市役所福祉課と家族・民生委員との意見交換の場ともなっている。近隣住民の方に今年度9月より新たに協力をいただく予定である。</p>	<p>運営推進会議は、住民を委員に依頼することや、職員の参加を図るなど会議の充実に向けて努めている。会議では、ホームの運営に活かす意見や行政や民生委員からの助言などが出されている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市・地域包括支援センターとの連携は、現在のところ運営推進会議での場のみとなっているが、この会議を活かしてケアの方向性について有意義な意見をいただいている。</p>	<p>法人内で解決できないこと等については、運営推進会議の場を利用して、市・地域包括支援センターから意見をもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会において、マニュアルをもとに、実際のサービス提供場面で、どのようなことが虐待となるか職員間で共通理解をもてるよう取り組んでいる。やむをえず、身体拘束をさせて頂く場面についてはご家族を交えて十分な話し合いをもち適切に処理している。</p>	<p>目配りや付き添っての散歩等で対応して拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。やむを得ず身体拘束を実施する場合は、マニュアルに基づき経過や家族への報告等の記録を整備することとしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員会においてマニュアルをもとに、どのような内容が虐待となるか共通理解をもつよう取り組んでいる。その上で、潜在しがちな虐待の防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者・一部の職員は、社会福祉士会が主催した権利擁護研修会に参加するなど学ぶ機会をもった。今後は、内部研修会で、権利擁護についての勉強会を開催したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様とご家族に対し、文書・口頭で十分に説明し了解をいただいている。また、利用代金変更・文書改定時など、変更事項について明確に説明し、理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様からの言葉・態度・表情などから、その思いに「気付く」よう努めている。その際は経過記録へ個々に記録し、会議等で使用しながら職員間で情報の共有化を図り、施設運営に反映させている。	日常のケアの中で得られた利用者の思い等を記録し、職員間の情報の共有化を図っている。また、面会時に職員が利用者の近況等を報告するとともに家族からの要望等を聞くように努め、意見や要望を運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議を設けており、運営に関する提案をする機会を設けている。年間行事の反省、その他問題がある場合についても職員の意見を十分に聞いて施設運営に努めている。	職員会議は、意見を出しやすい雰囲気であり、意見を運営に反映するようにしている。「入浴日と入浴者数の見直しが利用者とのコミュニケーションの時間を増やす」等の提案が実行されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	個別ケアに徹するための手段として、職員の要望等を勘案してユニットケアの整備をした。		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	資質向上のため研修等へ積極的な参加、経費の負担をしている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者との交流は、職員研修を通じて職員同士の取り組み方や質の向上などの勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決定される前より、面談を通じて本人様の思いを把握できるように努めている。また、環境が変わることへの配慮も含めて、利用日開始より安心して過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、これまでご家族様が抱えてこられた悩みや不安、今後の希望等を聞く機会をいただいている。また、サービス導入中も、様々な面でご協力をいただけるように、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった場合、当サービスありきではなく、可能な限り、住み慣れた地域で住みつづけることが出来ないか、また居宅サービス・他社会資源で支援が出来ないかをサービス導入前にご家族様を含めて検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のペースを大切しながら日常生活は過ぎていく。その中で、入居者様の喜びや悲しみ、その時々的心情を知ることにも努め、暮らしの中で分かち合える関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>市内・県外在住のご家族様であっても、定期的に来鹿して下さるなど、ともに本人様を支えていく関係性にある。その多くの機会を利用して、日々の様子を経過記録表をお見せしながら報告し、支援の場で活かしている。また、個別担当者は施設でのご様子を定期的に文書にて発送している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居以前に利用していた美容院、かかりつけ医など、またご友人とお付き合いなどが途切れないようにご家族様と共同で支援に努めている。</p>	<p>以前に住んでいた自治会行事に同行したり、同法人のデイサービス利用時の友人や馴染みの職員に来訪してもらっている。また、家族の面会時に地域の友人を同行してもらい、関係性継続の支援の働きかけを行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングでは、個別性も大切にしつつ楽しく過ごせるよう配慮している。また心身の状態や気分、感情の変化で周囲の方と上手く関わりが持てない場面では職員が調整役となっている。入居者によっては「あだ名」を使用されるなど馴染みの関係性ができている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス契約が終了した方に対しても、当時の写真をポスター紙等に印刷し職員のメッセージ付でお渡しするなどしている。また必要に応じて、本人様やご家族様と連絡を取らせて頂くこともある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の自己決定を尊重し、選択していただくような場面を提供するように努めている。意思の表現がうまく出来ない方は、ご家族様から在宅時の生活歴を再度お聞きし、日々の関わりの中で本人様の場合はという視点にたち職員間で取り組んでいる。	家族から得た生活歴等の情報を参考にして、困難な場合も含め日常のケアの中で利用者の言葉や表情等から希望や思いの把握に努め本人中心の支援になるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、これまでの暮らし、サービス利用に至った経緯を含め把握している。本人様の生活歴・趣味等を知り全体像をつかむことがケアにおいて重要であることをご家族様に了解をいただいた上で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録表に、排泄・水分摂取量・食事分量等を記録している。また心身状態等、特記すべきことがある場合もこの記録表に記入し、当日ごとの朝・夕のミーティングで情報の共有化を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人様との関り、ご家族様との関り、職員の気付いたことなど、介護計画に反映するように努めている。意思疎通の困難の方もいるが、ご家族様に意見を求めながら、本人様本位の計画作成に努めている。サービス担当者会議には、ご家族様にもお立会いしていただき、サービス提供についてご説明をしている。	定期的に個別担当者がモニタリングを実施し、ケアプランは職員全体のカンファレンスで検討している。また、サービス担当者会議に家族の参加を働きかけ、遠方の家族にはケアプランの原案を郵送して意見を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を経過記録に記入している。一枚の記録用紙で一週間記録できるように工夫し、直接処遇面で気づくこと以外に、記録用紙からも「気づき」が出来るように、職員間で情報共有に努めてはいるが、この点については、どのようにすれば情報を共有することができるか常に考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の希望で外泊・外出の際は、これまでの介護過程等を再度ご家族様にご説明するなどして、円滑に外出・外泊が可能になるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様や、ご家族様が安心して過ごして頂けるよう消防署や関係機関、近隣の方の協力をいただいて年2回防災訓練を実施している。かかりつけの美容室への移動支援など、個々の入居者様に応じた対応をとらせていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入居にあたって、これまでの関係性が断たれることは好ましくなく、本人様やご家族様の希望にそって入居前からのかかりつけ医を利用したり、入居後もご希望に応じてかかりつけ医を変更していただくなど適切に対応をしている。	入居前からのかかりつけ医の受診を基本としており、職員が同行支援して、受診結果を家族に報告し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日々の業務の中で収集した情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護職員を配置しており、入居者様の健康管理についても、記録様式を整備し、介護職と連携し受診支援や、日常の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、本人様のこれまでの経過・状態変化を医療機関へ情報提供し、環境が変わることへの支援・回復・退院に向けたアプローチを医師・MSWをはじめとした相談職を交え支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期、看取りケアのに向けて看取りに関する指針を作成している。事業所でできる事を具体的にメリット、デメリットを説明して個々の同意を得たい。	重度化や看取りに関する指針はあるものの、ホームの方針は、家族への説明の段階である。	ホームとしての方針の明確化と同時に職員と家族との共有化を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員一人ひとりの急変時、事故発生における緊急マニュアルを作成し共有している。AED等の使用訓練等を実際に救急隊員の協力を得て行い緊急発生時の対応に活かせるよう訓練している。内部研修会においても当施設で用意しているAEDの取り扱いの説明等を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回消防署や近隣住民の協力のもと実施している。防火管理取得者を各ユニットに1人配置し、災害対応マニュアルをもとに職員間で意識の共有を図っている。また消防設備は保守点検を行なっている。	スプリンクラーを設置し、年2回の防災訓練は地域住民に避難誘導の協力を得ている。また、備蓄については法人として対応されているが、ホームでも飲料水等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大事にするため誇りやプライバシーを損ねない様な言葉かけに努めており、通常業務内においても職員間で気付いたことなどをその都度、確認をとりあっている。	誇りやプライバシーを損ねないようなケアに努め、名前は名字で呼び、職員間でも注意しあって穏やかな言葉かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○○して下さいという関わり方でなく、入居者様に声かけをしながら選択していただけるような場面を提供し、また本人様の自己決定を尊重している。声かけ時の些細なことも注意深く観察するなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中にも、個々の生活ペースを重視し、例えばリビングではなく居室で過ごしたいという本人様の意向も大切にするなど、一人ひとりの希望にそって支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の選択や整髪、洗面等の身だしなみについては、自分でできる方に対しては自立せて頂き、介助のみにでしか行えない方に対しても配慮し、好きな色などを事前に把握し、起床時に衣類を選択してもらうなど支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と同じ内容で同じ時間に食している。個々で嗜好の違いがあるので配慮しながら食卓を囲む楽しい時間を提供できるように支援している。	買い物や下ごしらえを利用者と一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を摂っており、食事介助は利用者のペースでゆっくりと丁寧な言葉かけで支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、隣接する協力特養に所属する管理栄養士より助言をいただきながら献立を作成し形態についても能力に応じて柔軟に対応している。水分量については、1日1500ml～2000mlを目処に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の入居者様の状態に応じて、食前の顔の体操、毎食後の口腔内清掃を行っている。入居者様によっては、食後は必ず口腔内の清掃（歯磨き）に行かれるなどサービス利用で習慣となった方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼夜に限らず排泄パターンに応じて支援を行っている。尿意・便意が表出されない方に対してはある程度排泄パターンに応じて排泄介助を支援し、失敗を減らすよう努めている。また排泄のサインに気付いていけるように職員間で意見交換をしている。	昼夜共排泄パターンにより誘導での支援をしている。夜間の安心のためにポータブルトイレやリハビリパンツは利用者の希望に沿って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分に関してはお茶、牛乳、ヨーグルト、紅茶など組み合わせて提供している。日々の関りの中で、散歩・ラジオ体操等を取り入れ便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	職員の勤務ローテーションの関係により曜日、時間帯は固定化しているのが現状であるが、常に本人様の意向にあった入浴支援の在り方について考えている。	週3回の入浴とその他は清拭を実施して保清に努めている。入浴の順番は決めておらず、準備等の状況を見て声かけし、ゆっくりと入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前は、居室の環境づくりをし、安眠できるように支援している。夜間も巡視を通じて、室温・湿度等に気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医療連携記録に、服薬の目的・副作用等が記入された用紙を綴じており、いつでも職員が情報を把握できるように努めている。服薬後の経過等は、看護師に報告し、看護師が記録簿に記入し医師と連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家事行為などを皆でする場合においても、感謝の言葉かけを忘れず、本人様が自身の役割と意欲的に思ってくださいよう支援している。また、その方にあった気晴らしの場面（煙草や読書など）を本人様に応じて提供している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出時の歩行が困難な方については、施設の車椅子を利用し外出支援をしている。またご家族様に声かけをし、本人様と外出する機会をつくっていただけるような家族支援も合わせて行なっている。ご家族様と一緒に外食や墓参りなど、サービス担当者会議においても、計画作成担当者からご家族様に対して協力をお願いしている。</p>	<p>年々車椅子使用の利用者が増えているが、毎日の散歩や利用者の希望による墓参りやドライブ等を実施している。また、家族に対しても利用者との外出について働きかけを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在金銭管理は行っていないが、中にはご家族の許可を得て小額のお金を持っていらっしゃる方が居られ、欲しい物を職員に頼まれたり、ご希望がある際には、実際に地域のお店までご支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自宅や家族に連絡をとりたいなどご希望があった場合など、電話や手紙等でその支援に努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日光の調節はカーテンで行い、室温等も心地良い温度に心掛けている。居室前には名前札を掛けている。共有スペース前には場所の記名をして認識して頂く工夫をしている。</p>	<p>居間と食堂はデッキのある中庭に面して明るい。堀コタツのある畳のスペースに続いて、ゆったりと中庭を眺められる空間となっている。また、広い廊下には畑を眺められるホールもあり、ホームの中で季節を感じることができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを配置したり、備え付けの畳の上で休憩できたりとお独りの時間にも配慮をしている。また、畑側非常口前ホールで、畑を見ながら入居者様同士が談笑するような居場所になれるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居日の前に、本人様やご家族様と相談しながらご自宅より使い慣れた家具等を持ってきていただくことで、自宅から環境が変わることへの住み替えのダメージが最小限になるように努めている。	居室から畑が眺められる明るい部屋で、使い慣れた家具やテレビ・家族の写真等が持ち込まれており、自宅との環境変化が少ない部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面に関しては個人の身体機能に応じて出来るだけ安全かつ自立に向けて環境整備を行っている。しかし必ずしも万全ではないが、「できないこと」を支援し「できること」に変え自立に向けての支援を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない